

日々の田高（能登半島地震・奥能登豪雨 災害支援活動報告会に生徒が参加しました。）

令和7年5月31日 西東京市 J:COM コール田無にて行われた「災害支援活動報告会」に本校生徒、2名が参加しました。これは、3月末に能登訪問をさせていただいた際にコーディネートをしてくださった小野修平さんの報告会の中で、現地で感じたこと、考えたことを語るためです。

小野さんは、能登半島地震が発生してから、輪島市に行き、行政の方と話す中で、「手伝ってくれないか」と、声をかけられたことをきっかけに、輪島市門前町の行政の支援の他に住民・行政・商店会・社協など福祉分野をつなぎ合わせる取り組みや地域の方とともに過ごす活動をされていました。この取り組みの一つとして、若者と現地で活動をしています。

今回の報告会に参加して思いを語った若者は、23人。一人一人がキーワードを掲げて語りました。

＜本校や他校から参加した高校生の話から＞

ボランティアは、力仕事や物理的なことだけではないことを知った。仮設団地の方、總持寺通り商店会の方、支所長さんからたくさん話を聞いた。若者が入ることで、普段の生活に新しい風が入る。若者のエネルギーは、辛さをわけあえたり、前を向く背中を押したりすることができると感じた。

知り続けることは、自分の責務。能登のニュースも減った。SNSで調べる。クラウドファンディングから知るなど、東京でも知ろうとできる。これからも、自分から情報にアクセスして、知り続けていこうと思う。

避難所の閉鎖のタイミングに活動をした、これまで、避難所が閉鎖することは、復興したことと思っていたが、避難所を出られる方の孤独や不安をひしひしと感じ、そこがスタートなのだと感じた。

本校の生徒は、6月下旬に、航空券代を補助してくださった同窓会、8月の学校見学会にでは中学生へ、訪問して感じたことや学んだことの報告をいたします。

